

平成27年6月12日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜
1番 豊村貴司
3番 朝長勇
6番 松尾陽輔
8番 石丸定
10番 上田雄一
12番 古川盛義
15番 末藤正幸
17番 吉原武藤
19番 川原千秋
21番 松尾初秋
24番 谷口攝久

副議長 吉川里己
2番 猪村利恵子
4番 山口等
7番 池田大生
9番 石橋敏伸
11番 山口裕子
14番 山崎鉄好
16番 宮本栄八
18番 山口昌宏
20番 牟田勝浩
23番 江原一雄

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長 友廣秀敏
次長 川久保和幸
議事係長 江上新治
議事係員 杉原啓仁

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
技		監	松	尾		定
政	策	部	北	川	政	次
つ	な	が	中	野	博	之
営	業	部	井	上	祐	次
営	業	部	千	賀	耕	司
営	業	部	小	田		修
農	業	委	秀	島	一	喜
く	ら	し	平	川		剛
こ	ど	も	諸	岡	隆	裕
ま	ち	づ	山	下	朋	彦
山	内	支	橋	口	一	夫
会	計	管	村	山	美	智
教	育	部	溝	上	正	勝
教	育	部	大	宅	敬	一
上	下	水	笠	原	孝	久
総	務	課	水	町	直	久
財	政	課	松	尾		徹
企	画	課	山	田	恭	輔

議 事 日 程 第 4 号

6月12日（金）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成27年6月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
10	18 山 口 昌 宏	1. 市長は今後、武雄市をどの様に運営をなされていくのか
11	9 石 橋 敏 伸	1. 消防行政について 2. 子育て支援について
12	1 豊 村 貴 司	1. こども教育会議について 2. 介護予防事業について 3. 地域活性について 1) 保養村について 2) 市街地活性と民間活力について
13	7 池 田 大 生	1. 教育について 1) ICT教育 2) 教育委員会 3) こども教育会議 4) 教育大綱 2. 市政運営について 1) 総合計画 2) 総合戦略

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は7番池田議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは18番山口昌宏議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

おはようございます。登壇の許可をいただきましたので、ただいまから一般質問をさせていただきます。

きょうはですね、中身としては5項目挙げております。そういう中でまず初めに、つながる部のほうに健康寿命ということでお尋ねをしたいと思えます。

市長が就任以来、健康寿命、私の在任中に1歳は延ばしたいという話をされておりますけれども、じゃあ健康寿命って何なの。今の政府の健康寿命の、男性の平均が71歳、女性が74歳ということだそうです。そこで市長にまずその健康寿命とは何かということでお尋ねをしたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。議員御指摘のとおり、私は健康寿命を1歳延ばしたいというふうに申し上げております。

一般的に平均寿命というのはよく言われる話ですけれども、ただ人生の中にはどうしても病気をしたり、あと介護が必要になったりするということがあります。介護も必要にならない日常生活にとって支障を来さなく、健康で元気にいられるその年齢の平均ということで健康寿命というふうに私は申し上げております。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

何か自分の家庭のことをちょっと言うのも変なんですけれども、うちの両親がですね、2人とも93歳であの世とやらへ逝きましたけれども、そのときにですね——まあ90歳までぐらいは両親とも元気だったんですね。そういう中で、うちの嫁が御飯を食べるときに、その若い嫁さんのほうと——その当時8人おりましたので、嫁さんのほうと話をしながら飯を食いよったんですね。私の時代の来るやろうかって。何かわかりますか。

結局嫁に来て45年間ぐらいは自分はもう飯ば炊いとうて。おふくろさんはもう嫁さんが来た時点でもう飯炊きは卒業した。それずっと嫁さんも定年で、もういい年なんですよ。

そしたらですね、がしこ元気かって私のほうがひよっとしたら先に逝くとやなかろうかっていう心配をするわけですね。確かに考えよったらですね、そういうふうな嫌いななかなかとですよ。それで何かあるとき女性特有の何というんですか、ある年齢になったら何かこうちょっとぐあいの悪うなったりなんしたりするわけでしょうが。そのときにですね、あいた、こい、私、私っていうかおふくろよりも、うちんが先にぼくつとやなかろうかと本当に思ったこともあるとですよ。

そういう中で今は何にもないですけども、そういう中で市長の言われる健康寿命というて

ですね、じゃあ健康寿命を保つには何をしたらいいか、どういうふうなやり方をしたらいいのかということで考えたんですよ。

そう考えたときにですね、市長は自分の在任中に1歳の健康寿命を延ばすと言いながら、市長たばこ吸うですよ。ね。(笑い声)酒腹いっぱい飲むですよ。ね。(笑い声)そういうふうな市長がですね、健康寿命を延ばしたいと言う意図がわからんとですけど、その辺についていかがですか。(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

山口議員も60歳ぐらいになるまで1日2箱吸っていたという話も聞いて、あ、3箱ですかね、失礼いたしました。吸っていて、このように大変お元気だというふうに思っておるんですけども、確におっしゃるとおりですね、私も飲酒、喫煙、そういったあたりはいたします。

就任以降ですね、健康寿命の話をあちこちでさせていただきました。やっぱりですね、その中で、ある確か婦人会だったと思うんですけども、健康寿命大事ですよというふうに私申し上げてはおったんですが、風邪引いててせき込んでたんですよ。全然市長説得力ないじゃないかというふうに言われたことはあります。確かにそうだなと。

ただ私も健康寿命、健康寿命と言っているとですね、何ですかね、自己暗示にかかってくるというかやっぱり意識づけができてきまして、就任以来お酒の量はぐっと減りました。たばこの量もかなり減りました。

やはり日々の意識づけが大事だなというふうに思っておりますので、私の健康のためにもぜひその健康寿命というのは、引き続き皆さんに訴え、していきたいなというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

やっぱり言うのであれば自分で率先してすると、努力をします。

というのはですね、総務課長と話をすることがありましてですね、いろいろ話をしたんですよ。それはやっぱりいかんやろうと、私も注意しますよと。私も痩せてはおおぼってん、たばこも吸うすもんねと。健康のために今から考えてお父さん以上に長生きをしたいなというような言い方をされておりましたので、市長もやっぱりその武雄市を担っていく政治家でありますので健康には十分に留意してですね、横の副市長だって飲み過ぎてああいうふうになられましたので、(笑い声)そういうふうなところは本当に十分に気をつけていただい

は十二分に気をつけてやっていただきたいと思います。

次に行きます。財政のほうにお尋ねをしたいんですけども、合併当時と現在の財政の状況の違いをまずお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川政策部長

○北川政策部長〔登壇〕

おはようございます。合併当時と現在の財政状況についてということでございます。

合併当時は平成 18 年、17 年の決算でちょっと見てみますと、また現在ということでは平成 25 年の決算と比較をしたいというふうに思います。

1 つは財政力指数ですが、これは基準財政収入額を基準財政需要額で割った数値でございます。公共団体の財政力を示す資料として用いられておりますが、合併当時は平成 17 年決算でございますが 0.44 でございました。平成 25 年決算では 0.47 という状況でございます、その間最大値には 0.51 と、平成 20 年には持ち直したと、そういった時期もございました。

もう一つ地方債の残高でございます。これは合併当時は普通会計で申し上げますと 219 億 7,500 万が 25 年当時では 176 億 8,500 万ほど、マイナス 42 億の地方債の減でございます。

なお全会計で見ますと、平成 17 年決算では 408 億 6,500 万ほどございましたが 25 年では 320 億 8,500 万ということで、87 億 8,000 万ほどの減ということになっております。

また基金の残高でございますが、財政調整基金と公共施設整備基金とこの 2 つを見ますと、合併当時合計で 33 億 7,500 万ほどございましたが、25 年決算では 73 億 600 万ほどということで、39 億 3,000 万ほどの増加でございます。

数字的にはそういう状況でございますが、合併後、合併支援措置の終了を見据えて事業見直しによる歳出抑制あるいは人件費の抑制、遊休地の処分等によりまして、財源の確保を図ってきたところでございまして、その数字が今申し述べた数字ではないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

18 番山口昌宏議員

○18 番（山口昌宏君）〔登壇〕

本来ならば、財政と企画とを分けて話をしたいなと、一般質問したいなと考えておりましたけれども、どうも事前審査にかかりそうなので、なかなか質問の仕方が難かしゅうございまして、今部長答弁がありましたけれども、今答弁の中で基金残高のことについてちょっとお尋ねをしますけれども、基金残高がふえて 73 億ぐらいありますよという話なんですけれども。

特別会計の分、例えば水道とか競輪とか特別会計に入っているわけでしょ。そういう中でですね、特別会計等々を含んだもので残高がどれくらい、あるいはその地方債の残高がどれ

くらいというのは基金残高と地方債の残高はわかるんですかね。わかりますか。(「いや、ご
ざいません」と呼ぶ者あり) はい、わからんそうです。

例えば競輪の——とりあえず今度競輪場の改修をされますけれども、競輪場の改修が約 17
億くらいという予算立てがなされてますよね。そういう中で、その半分——大体基金が 17
億くらいあるんでしょ。それ近くはですね。そういう中で半分近くが一般会計あるいは水道
会計から借りていくというような話も聞き及んでおりますし、水道会計は水道会計で 17 億ぐ
らいの基金を持ってますよと。

武雄市まだ、旧武雄町のまだ水道が整備がなかなかですね、どこにどがんとがあるかもわ
からんくらいの古い水道もあると思いますので、そういうふうな基金の中でしたら、前市長
が言いよった、いんにゃ、百数十億のその基金残高になってますよというのがその辺の根拠
やないかなと思うんですけれども市長いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

そうですね、前市長が財政健全をしたということで 100 億というふうに言ってましたのは、
これ地方債残高の減と基金の増を合わせた財政効果ということで言ってたというふうに私記
憶しております。

ただおっしゃるとおりですね、最後に御質問された部分もやはりその財政的な面では考慮
されるべきところだと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

18 番山口昌宏議員

○18 番（山口昌宏君）〔登壇〕

ということはですよ、きのう 11 番議員の質問の中でですね、市長って、あなたやるとき
これやるよと言ってくださいよっていう話があいよったですね。一般質問の中であつたです
ね。

じゃあ、その合併した当時の起債残高あるいはその基金残高を考慮したときにですね、や
るときはやらんと、使うべきところにはちゃんとこう必要な部分については使わんことには
——市長がいや考えてますよと。

大体ですね、議会用語——要するに国で言う検討します、市長よく使われますよね。検討
しますという言葉は、検討をするだけでしませんというのが通常の言葉だそうなので、注
意して答弁をしていただかないことには、市長はそれじゃあ検討するだけであと何もせんと
やるかという懸念があるわけですね。

そういう中でこれだけの金があつて、そりゃあ、ためて皆さん方に負担を残さんようにす
るのが正当でしょうけれども、要るべきところには使う。そういうふうな気持ちは市長いか

がですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

やはりめり張りが大事だと思っております。締めるときは締めますけれども、一方で投資するときは大胆に投資するというところが私も必要だと。自治体経営というふうにもおっしゃってますけど、まさにそれが経営じゃないかと思っております。

ちょうど無印良品の会長さんの本を2日ぐらい前ですかね、読んでたんですけども、無印良品というのはここ経営がかなり悪化したというときに、その会長さんが社長になってやったことが、かなりのお金を投資して自動発注システムとか何かそういうものを導入したと、それによってV字回復をしたというのを読み、非常に私も勉強になりました。

投資すべきときは大胆に投資する、これも武雄の未来のためにというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

市長ですね、やるときには声のひっくり返るぐらいに、いやあ、やるよーって、こういうくらいな気持ちでやってくださいよ。

淡々と言うてもろうたらですね、本当にこの人やるとやろかと。テレビを見られる方も恐らくそういうふうには大丈夫やろかなという気にならんとも限らんですから、やるときにはやるぞっと後ろの人にも含めて力強く言っとってください。

何でこういうふうなことを出したかというのですね、あの約88億の起債残高減らしたと、そして基金としては40億ぐらいふやしたと、その差の120億ぐらいあるんですね。

それは目に見えんことかもわからんですけども、それだけの努力をしてやったということで、やっぱり——前市長だってですね、100のうち3つぐらいしか成功しとらんのですよ、本当は。そんなもんなんです。

ところがですね、100のうち3つ成功してですよ、日本にですよ、佐賀県に武雄はここにありというのを示したんですから。100のうち100成功すつとはそれはうそです。ですね。

だから、市長もそういうふうな気概を持って今後やっていただかないことには、武雄市は今ままでいったら恐らくもとのもくあみといえますか、もとのままになってしまう。じゃあ今までしたのは何なのかと言われるのは首長なんです。その辺をですね、心に肝に銘じて今後やっていただきたいなと思っております。

この間、牟田議員の質問の中で補助事業、補助事業ばこうして見よってですね、補助事業のなかぎにゃは、その金、その出どころはどがんすつやという話になったでしょうが。

これはもう答弁いらんですけれども、要するに企画の話なんです。補助事業を恐らく何百、何千という補助事業の中から調べたら出てくるはずなんです。最低でも 50%の補助金が恐らくできるであろうということが。

それが私は企画部の仕事だとずっと言ってきた。そしてあなたたち職員の皆さん方は、くらし部を含めて未来部ですか、企画部ですか、いろんな、教育部ですか。いろんなことすべてを網羅した上で横のつながりを持ちなさいと、口のしゅうなあごと私は今まで言ってきました。

その結果がですね、今回の——これは事前審査になるけん言いませんけども、今回の機構改革に入っとうじゃなかですか。皆さん方が言われたことしとらんからこういうふうなことになるんですよ。違いますか。(発言する者あり)

そういうふうなことを含めてちゃんと協議をせんことには、皆さん方の考えを今から改めてでも武雄市の発展のために頑張っていたきたいというのを思ってるんですよ。(「答弁聞きたかね」と呼ぶ者あり) 答弁はいりません。自分たちの、何ていうんですか、委員会でしっかりやっていただきたい。

その前にちょっといいですか。宮本君に言うとかけどね、おいが一言言うたら、あんたすぐ今言うたけども、私が言ったのはすぐ言いよるよね。(「いや」と呼ぶ者あり) なんがいやかこの。(笑い声)

○議長(杉原豊喜君)

山口議員。質問者、山口議員。2人のあれは控えてください。山口議員ちょっと控えてください。

宮本議員、人の質問中にですね、あなた私のところまで聞こえております、小言が。ぶつぶつ言いよって聞こえております。(「事前審査でしょう」と呼ぶ者あり) 事前審査ではありません。議題のあれはしておられません。事前審査であつたら私がとめます。(発言する者あり) 整理権は私が持ってますので私がとめますよ。あなたから言われなくても。(発言する者あり)

山口議員、質問を続けてください。

○18番(山口昌宏君)(続)

ということでですね、今から縦、横のつながりを考えて頑張っていたきたいということで次に行きます。

次は観光。これがですね、見よつたら豊村議員がこの後質問の中で保養村のことについてやりたいということだったんですけれども。

私がですね、何で保養村かという、それこそずっと前から保養村に何じゃい恨みのああやていうごとを毎回毎回毎回ずっと保養村の質問をしてきたわけです。

というのは、約 40 億かけて保養村整備計画 1 次から 2 次、3 次ってしてきたですよ。

そういうふうな中で肝心かなめのところは、どがんなっとうかいということで話をしたときに、第3次保養村整備計画っていうて出たです。出たけれども、そのときに私が言ったことは、これ議事録開いてみればわかると思うんですけども、あなたたちは1次、2次のときに私が一般質問で言ったことをここに書いてますよねって。私はそのときに1次、2次でやりなさいと言うたことを、あなたたちはしてなくてただ書いてだけですよと言ったことあるんですよ。

それで担当課としてですね、これをその保養村の整備計画の3次のときに書いておられますけれども、その辺について3次でどれくらいのことをされたのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

おはようございます。モニターのほうよろしくお願ひいたします。

（モニター使用）議員御指摘の第3次の保養村の計画でございますが、平成17年から平成26年度までの10年間でございます。

第3次の中に大きく掲げてますのは、ここに画像を挙げておりますけども、全体としての7つのゾーンということで保養村のほうを7つの目的に沿ったゾーンに色分けをしているわけでございます。ここで皆様方も、特に議員さんの御意見も頂戴したかと思いますが、こういった形でゾーンを分けております。

これまで何をしたかと言いますと、平成19年に議会の折に当時市長のほうに御質問に対してお答えしてるようでございますが、例えば新たな予算をかけてハードを整備するというよりも現在あるものを利用するという形で、ソフトを中心にやっていくという形で答弁したところであります。

それにのっとりまして、これまでは保養村をどのように使っていたかということ、サービスの向上について地元の協力会の皆さん方等も協力をいただきながら進めているところでございまして、そういった意味ではハードよりもソフトを中心にという形でございます。

ただ昨今、韓国を中心としましたオルレのほうの推進に当たりましては、平成24年度にオルレコースの山岳の遊歩道を整備するという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

ちょっとこのまましといてください。これ内子ため池ですか。（「池ノ内ため池です」と呼ぶ者あり）いやいや、これが池ノ内やもんね。これが池ノ上ため池やったのかな。名称は。内子。（「内子です」と呼ぶ者あり）内子ため池の周辺部の整備を含めてされたということで

しょ。3次のときにね。

あれは2次までときに、くるっと回られんで崩壊しとったとの分をしたわけでしょ。

あそこは上のところは木ですてありますので、十二分に整備等々は点検をしていただかないと、もし何かあったときには大変なことになると思いますので、その辺のところの補修等々もよろしく願いして、あとは豊村君に任せたいと思います。

次の、3番目の、教育部の皆さん、すいませんでした。興奮はしとらんやったですけど、めくり間違っって先行きましたので、戻って教育部の方にちょっとお尋ねをしたいと思います。

図書館開館から今まで、この間170万人という話があつておりましたけれども、まあ170万人って一口には言いますけれども、たかが図書館されど図書館というくらいにいまだに衰えることを知らず、毎日毎日よくおいでいただいて感謝、ただただ感謝しておりますという気持ちなんです。

でも、でもですよ、それでもやっぱり何もないじゃないですよ。例えば、駐車場が狭かった、あるいはキッズがもう少しどうかしてもらいたい、あるいはほかの何かをしてもらいたいという話も含めていろいろありますよね。そういう中で今後の図書館のあり方もずっと検証をしながらしていかなければいけないんじゃないかと思うわけですね。そこで今後のですね、検証の仕方としてどのような考えをお持ちなのかをお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話しにありましたように2年で170万人。そして大体55%が市内の方ですけども、ほんとに県内外からおいでいただいていると。

これは、ですから検証する内容としましては図書館として魅力ある図書館、その魅力で来ていただいているという図書館としての検証と、それから直接私どもができるできないありますけれども、それだけの方に来ていただく上での来館者を含めた検証、それで先ほどありましたように、そこには駐車場であつたり問題があるわけですけども、利用者にとっての検証は当然ですけども、そういう来館者含めた来館者についての検証と、それから運営上の検証、そういうことを今後なお続けていくということになると思います。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

じゃあ市長にお尋ねしますけども、市長就任時新聞でキッズのことについて載りましたよね。報道がなされましたけれども、あのときに明くる日に新聞に載った次の日、議員皆さん方は青うない白うないしてですね、何やこいはと、そがん話はだれも聞いてらんとというようなことで、けんけんがくがくありましけれども、市長はあのときにどういうふうな思いで言

われたのか、じゃあそのときにどういうふうな思いで言われたのかを言っていただければ、その後ですね、市長は今後の図書館のあり方としてどのように考えておられるのか、その辺のところについてお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

（モニター使用）そうですね、あのときは新聞に児童図書館新築せずというふうに見出しが載りました。当時はですね、私はいろいろな選択肢があるということで申し上げたわけでした。新築せずということで断言はしておりません。この場で改めて申し上げたいというふうに思っています。

その上で今後の図書館のあり方ですけれども、先ほど議員もおっしゃったとおり現在図書館を見ると幾つか課題があると。例えばおっしゃったとおり図書館、駐車場が狭いとか、あとキッズスペースが少ないとか、そういった御要望を多くいただいているところであります。

そこで私も一利用者として、いろいろと利用しております。そこでも気づいた点も含めて、特に母親の方、父親の方と話すそうですね、ぜひキッズスペースというのを広げてくれというような声が非常に多いということに、私この地域回りをしている中でそういう声をいただきました。

改めて、当初はキッズライブラリーの話だったんですけれども、キッズライブラリーから少し私はちょっと視野を広げてみて、私がしたい子育て支援、教育、そういったことを踏まえてちょっと幅広く考えたところですね、よく言われるのは、子どもと一緒に時間を過ごすようなそういった場をもっとふやしてほしいというふうに、そういう声を非常にいただいています。

例えば、いいですか、ちょっと長くなって。例えばあるお母さんが言っていたのが、やっぱり私たちはサラリーマンだと。休みは土曜日か日曜日、家族で過ごせるのはどちらかの1日だというようなときに、せっかくだからそこを充実した時間を過ごしたい。いろいろ公園あるじゃないですかと言ったところですね、いや公園は実はまず雨降ったら行けないですよ。あと言われたのはですね、実は夏はものすごく暑いし子どもがそこは体が心配だというような声ももらいました。結局商業施設に行き、そして図書館にも行くんですけども、そういったところしかないというような話をかなりいただいたところであります。

あとは楽しく学べる場があればいい。人によってはキッズニアのようなものというふうな話はありましたけれども、かなりそれは家族で楽しく、しかも学べる場というのがこのあたり周辺にはないと、そういう声をたくさんいただきました。

ちょっと長くなりましたけれども、いろいろ私もこの期間ずっと考えておまして、ぜひここは図書館周辺にキッズライブラリーをさらに発展させた、仮称ですけども子育てセンタ

一をぜひつくりたいというふうに思っております。

図書館のそばにということは、とりもなおさず図書館との相乗効果を期待してのものであります。

(モニター使用) これはあくまでイメージで外国の建物なんですけれども、例えばこういうようなところで子どもと親子で一緒に学べる、そして例えば母親が図書館に行ってる間に父親と子どもはこちらで遊んだり一緒に学んだりできる、そういった場をぜひつくりたいというふうに思っております。

ただ、今ですね、じゃあ適地があるかというところはまだそういう検討には入っておりません。ぜひそういった適地の検討等も含めてですね、そこは教育部長をプロジェクトリーダーとして、ぜひ今後実際の実現に向けた調査を進めていきたいというふうに思っております。

子育てと教育、これは私が大事にしたいところであります。まさに未就学児のころから楽しく学べるというようなところ、そういった場を武雄において、これを子育て教育の1つの私の柱としていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

18 番山口昌宏議員

○18 番（山口昌宏君）〔登壇〕

何かできたらいいなと、思わず声が出るようなつくりが今映し出されておりますけれども、こういうふうなどでも先ほどから言ってるように、もうやるようならやるよと。

そのプロジェクトに今、例えば教育部長をリーダーにということですが、教育部長をリーダーとして頑張ってくださいか。(発言する者あり) はい、頑張るそうですので。

まあいずれにしてもですね、やっぱり皆さん方のニーズに合ったつくりをしていただいて、本当に武雄市に、いつも言ってるように、生まれてよかった育ってよかったというような環境づくりも含めてですね、市長が今、気合いを入れてやっていただきたいと思っております。

では、次に行きます。次は企業の立地のところなんですけれども、若木の工業団地がつくって20年かかって完売したですよ。

じゃあ今度の武雄北方インター工業団地はどうかというと、今まで2社来ていただいて、3社目の初めのあれは何ですか、イワフチさん、イワフチさんの分はまあ別として2社分はもう売れたと。あと残りわずか、皆さん方お手上げありませんかじゃないですけども、あと2.3ヘクタールぐらい残ってるんですけども、この2.3ヘクタールの今後のその見通しというのですか、というのは何を言いたいかというのですよ、せっかくこういうふうな今の景気の状態の中で、もしこれが完売ができて次の目的に向かっていけるようであればですね、それこそやっぱり武雄市にとって会社なり何か来てくれることによってですね、人口減少を幾らかでも歯止めがかかればと願ってこの質問を出したんですけども、工業団地の今後の見通しとしていかがなものでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

武雄北方インター工業団地につきましては、平成 23 年 10 月に約 18 ヘクタールで分譲が開始されまして、現在 2.3 ヘクタールが残っているところであります。ここまでいったのもですね、あらゆる多くの関係者の皆様のおかげであるというふうに思っております、この場をおかりしましてお礼を申し上げます。

そして残りの 2.3 ヘクタールなんですけれども、実はある企業から現在引き合いがかかっておりまして、最終段階にきております。これについてはですね、またしかるべき、相手さんもある話なんですけれども、しかるべきタイミングがくれば正式に御報告をさせていただきたいと。そしてもしこれが決まれば、ついによりやく完売ということになります。

○議長（杉原豊喜君）

18 番山口昌宏議員

○18 番（山口昌宏君）〔登壇〕

完売ってそこ 3 年弱、3 年ちょいですよ。

景気も含めてその世の中の動向がそういうふうな動向になったからこそ、こういうふうになったのかなと思っておりますけれども、もう一つお尋ねは、もし今その引き合いがあつてこの工業団地が売れたということになればですよ、例えば大同メタルさん、大同メタルさんの子会社さんとかが恐らくあると思うんですけれども、そういうふうな中での引き合いはあっているのかどうか、その辺お尋ねしていいですか。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部理事

○千賀営業部理事〔登壇〕

おはようございます。今お問い合わせの大同メタルの子会社さんの引き合いの件でございますが、現在のところはまだ具体的な引き合いはあっておりません。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

18 番山口昌宏議員

○18 番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても企業立地課さんを含めてですね、武雄の職員の皆さん方がですね、それこそ何かの話じゃないですけど、一丸となって頑張った結果がこの 3 年の中にあられたんじゃないかと思っております。

そういう中でですね、もし子会社さんでも行きたいというようなことがあればですね、それこそ企業立地課を中心にトップセールスをしていただいて、今から先も含めてですね、武

雄市が、人口の増はなかなか難しいかもわからんけれども、減だけは極力控えていただくように、企業を含めていろんな形で努力をしていただきたいと。

そして武雄市の未来を、我々はもうこれで終わるかもわからんですけども、未来に残る子どもたちのためにですね、福祉の維持向上等含めて頑張っていたきたいなと思って、一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で18番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、5分程度休憩をいたします。

休	憩	9時43分
再	開	9時50分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、9番石橋議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。9番石橋議員

○9番（石橋敏伸君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長より登壇の許可を受けましたので、石橋敏伸の一般質問をさせていただきます。

昨夜、テレビでクローズアップ現代の番組の中で伝統ある沢村栄治投手の話がありました。

昭和11年12月だったと思いますが、日本シリーズ巨人対阪神の映像は2分間でしたけども、あのころ約80年前のテープがですね、最初放映されたときにはあまりよく画面がわかりませんでしたけども、今の技術で鮮明に映し出されていました。

私もスポーツ、野球大好きでありましたので感動したところです。そしてファイトをもらってきょうの一般質問をさせていただきます。（笑い声）

それでは消防行政について質問であります。さきの3月議会で松尾初秋議員の消防に対する質問がありましたので、かぶらないように質問をさせていただきます。

6月3日に梅雨入りをいたしました。常襲水害地である武雄において水害等の災害がないことを祈る一人でもあります。3・11東日本大震災以降、地域消防の存在といますか、組織といますか、また活動や役割の重要さが再認識されていると思います。

地域コミュニティにおいても大切な存在でもあります。年々、気象状況や災害等の規模が拡大し、予期せぬ事態が起こり得る中、私自身もかなり昔って言ったらかおかしいですけども、消防団に在籍をしておりました。

当時から比べても活動や役割が多岐にわたってきていると思われれます。また人口減少に伴い若手の確保も難しい中、現在の地域とのかかわり合いも含め、消防団の活動と役割についてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川政策部長

○北川政策部長〔登壇〕

消防行政の中での消防団の役割をどう認識しているかということだと思います。

大規模の災害の際には、各地域の実情に精通した地域住民で構成されている消防団につきましては、地域の密着性、あるいは要員の動員力、あるいは即時対応力の面でも特にすぐれており、地域の安全・安心を確保するためには非常に欠かせない重大な役割があるというふうに認識をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

9番石橋議員

○9番（石橋敏伸君）〔登壇〕

訓練等も含めさまざまな活動がされている中に、今度7月5日に第6回の武雄市消防操法大会が実施されるそうです。小型ポンプ操法、ラップ吹奏の部等行われます。

市長も出席されると思いますが、このような活動を含め、消防に対する思いをお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今度の操法大会に向けて各所で、それこそ毎日練習をしていただいていると。

私も職員も消防に多くの者入っておりますし、まさに牟田議員さんも含めてですね……（「団長団長、団長」と呼ぶ者あり）あ、すみません（笑い声）一番大事な団長を忘れて、団長もですね、あ、豊村議員も（笑い声）——いろいろですね、そこは日々本当に訓練を——あ、（笑い声）もう議員の皆様もですね、すみません、私の言葉足らずで失礼いたしました。毎日懸命に練習をしていただいているというところに心から敬意を表したいと思っています。

やはり消防団はですね、私は常々言っておりますが、地域の安全の核であるというふうに思っております。何かあればすぐに地域のために出動する。そして日々の点検は欠かさない。そういった地域を思う姿勢、私はこの消防団は武雄の宝であると。そして皆様にはぜひ武雄の安心・安全のために、これからも何とぞよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番石橋議員

○9番（石橋敏伸君）〔登壇〕

団員も仕事を持ちながらですね、厳しい毎日の練習をされております。

市長も経験されたことはなかいですよね。消防団はないですね、はい。初めてだと思います

ので言わせていただきますが、大会当日の完成された技術もですが、忙しい中に時間があれば頑張っている練習を市長も見ていただければ団員も頑張るんじゃないかならうかと思いますがいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ぜひ操法大会は、私は本当に楽しみにしておりますし、それまでにもぜひ時間をつくってですね、その皆様の練習の風景は見に行って、激励になるかどうかはあれですけどもお疲れさまということで一言、ぜひ声をかけたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

9番石橋議員

○9番（石橋敏伸君）〔登壇〕

団員も喜ぶことだと思います。

今回さまざまな活動をされてる中で出動手当に違いが少しありますが、その算出根拠がわかればお願いしたいと思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

北川政策部長

○北川政策部長〔登壇〕

出動手当についての、特に通告をいただいておりますので、答弁について持ち合わせておりません。

○議長（杉原豊喜君）

9番石橋議員

○9番（石橋敏伸君）〔登壇〕

私が言ってなかったのがいけませんですけども、少し若干の違いがあると思っております。火災のときとか訓練等のときに出動手当が若干違いますけども、消防団の各訓練とかいろんな訓練の中で前もって、事前の幹部訓練とかいろんな訓練があっている中で何で違うのかなと思っておりますが、それは後ほどまたお尋ねをしたいと思います。

いろんな考えありましようが、消防団員もすべてに団服を着用して出動し、また団服に市民の安全・安心を思い、強い信念のもと活動はされてると思っております。今後団員の励みにつながるようにお考えをいただければと思います。

それでは2番目の子育て支援についてであります。市長は子育て、教育が政策の1丁目1番地であると申されてました。

今回、全庁的な組織改編として議案にも挙げられておりますが、自身も子育て真っ最中であられる中、子育てに対する市長の考えと武雄市における子育て支援はどのようなことをさ

れているのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

この議会でも私も申し上げておりますけれども、やはりこれからの地域創生に当たっては子育ての支援、教育の充実が私は鍵だというふうに思っております。

武雄市の場合は教育、これについてはほかにも誇れる小学校、中学校教育を行っておるといふふうに認識しておりますし、子育て支援も他市にも劣らぬ支援をしていると思っております。

その子育て、教育、それをさらに充実して高めることで地域の暮らしやすさを高め、さらにそれをもって周りから人を呼ぶということを考えていきたいと思っております。個別の子育て支援政策については部長から答弁をさせます。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども部長

○諸岡こども部長〔登壇〕

おはようございます。少子化対策を含めてでございますけれども、一番の大事なことは武雄市で産み、育てやすい環境をいかにつくっていくのか、これが一番大事なことではないかと。そういった意味から現在、子育て支援の充実というのを重要施策として取り組んでいるところでございます。

本年の4月からでございますけれども、子ども・子育ての新制度が始まりました。この中では教育保育を中心とした充実を行うとともに、13の事業を事業計画に盛り込みまして、さらなる充実を進めていきたいという考えでございます。

それから母子保健の関係でございますけれども、この関係では妊婦健診、これは14回分でございますけれども、これへの助成、あるいはひとり親家庭の支援、あるいは不妊治療でございますけれども、こういうものへの支援、助成を行っているところであります。

さらに平成24年度からございましたけれども、子どもの医療費の部分について入院費、それから26年度からは通院費を中学生まで助成すると、拡大をしたと。こういうもろもろの子育て支援に対する事業を進めているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番石橋議員

○9番（石橋敏伸君）〔登壇〕

さまざまな支援を行ってもらっている中でですね、定住促進補助金子ども1人当たり10万円の助成があります。

また先日の新聞報道等にも発表されましたが、出生率も下がっている中、当然人口減少も

進んでいきます。そのような中で、産み、育てやすいまちづくりの施策の一環として出生祝い金の復活はできないものかをお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども部長

○諸岡こども部長〔登壇〕

ただいま御質問をいただきました出生祝い金でございますけども、この制度につきましては、平成24年の9月まででございましたけども、1万円を支給をしていたということでございます。

ただこの制度の事務事業を関係機関が検討する中で、やはり継続的な、あるいは長期的な支援策を考えていくべきではないかと。こういうことから子どもの医療費の充実策を選択してきていると。

先ほど申し上げましたけども24年度からは中学生までの入院費、それから26年度からは通院費まで拡充をしてきたということでございます。現在子どもの医療費の関係で拡充した分でございますけども、2,300万程度の負担をしてるというようなことでございまして、現在の段階では出生祝い金の復活という考え方については立っていないというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番石橋議員

○9番（石橋敏伸君）〔登壇〕

いろいろな子どもに対する医療ですね、そういった面に、回してというのはおかしいですけども使っているということでありますが、定住特区してよそから来ていただいた、人口増につながる定住促進事業であります、よそから来た人、中学3年生から以下、1人10万円ですよね。

そうした中で、せっかく武雄で産んでいただくお母さん、お父さんたちがですね、そういったことで私の耳に聞くときにですね、前、出生一時金のごたとのあったよという言葉もあります。あるいは、もうなかとやろうか、ちょっと子どももふゆっちゃなかと。先日の3番議員の第3子は1,000万と極端な話であったかもしれませんが、その中で市長はもう一回考え直そうかのうという答弁がありましたので、本当にそういった補助、助成があれば人口の、幾らかにもつながるんじゃないかなと思うとりますがいかがでしょうか。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

小松市長（発言する者あり）

静かに。

○小松市長〔登壇〕

ここについてはですね、先ほど部長が答弁したとおり継続的な支援が私も大事だと思っておりますので、ぜひそちらを重視させていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番石橋議員

○9番（石橋敏伸君）〔登壇〕

先ほど答弁にありましたように、医療費助成についても経済的支援ということで非常にありがたいことです。

負担の軽減とのことで助かりますが、さらに踏み込んでみれば今現在一部申請方式ですが、一旦窓口で負担をし、申請により助成という制度であります。きめ細かな制度であるためにも、またより一層の負担の軽減を考えればですね、窓口における現物支給への変更は考えられないものかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども部長

○諸岡こども部長〔登壇〕

子どもの医療費の支払い方法でございますけども、議員御指摘のように就学前の方の分については現物給付という形でやっておるわけでございますけども、それ以後、中学生の分については償還払いと。これは一旦お支払いをいただいてその分をお返しをすると、こういうふうなシステムで進めているところでございます。

この制度を現物給付にできるというのが非常に望ましいというふうに考えておるところでございますが、県内の実情を申し上げますと、それぞれの市町においてそれぞれの支給の方法についての違いがございまして、なかなか統一ができないことから、償還払いの方法で現在のところはいかざるを得ないというところでございますが、できるだけ早く現物給付になるというのが望ましいわけでございますので、これについては県のほうにもしっかりと現物給付にできるような要望を行っていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

9番石橋議員

○9番（石橋敏伸君）〔登壇〕

いい方向にお願いしたいと思います。

本当に窓口に来られて申請して、後で振り込むということでもありますので、今答弁の中でありましたように窓口でお支払いするようになるだけやっていくということでもあります。ありがとうございます。

さまざまな問題ありましようけども1丁目1番地の政策であります、さまざまな機関や団体へ市長みずから率先して声を上げていただき、武雄市で産み、育ててよかった、また子どもたちの笑顔があふれるまちづくりにつながるようお願いをいたしまして、石橋敏伸の質問

を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

先ほど石橋議員の質問の中です、消防団員の出動手当に関する件で通告があつていないので資料がないということでございましたけども、執行部から答弁の申し出があつておりますので、これを許可いたしたいと思ひます。

北川政策部長

○北川政策部長〔登壇〕

先ほど消防団員の出動手当についての御質問ありましたが、通告をいただけていないということでお答えをしませんでしたが、議員が質問の途中で消防団員の出動手当に差があるのではないかとこのニュアンスでお話をされましたが、この出動手当につきましては団員すべて同一でございます。

通常出動のときには1,200円、災害時については危険を伴うということで1,800円ということで、災害の種類あるいは団員の位で違うということではございませんので、誤解なきようによろしく願ひいたします。

○議長（杉原豊喜君）

以上で9番石橋議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、5分程度休憩をいたします。

休	憩	10時11分
再	開	10時19分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、1番豊村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、1番豊村貴司、一般質問を始めさせていただきます。

振り返れば大変緊張した昨年6月、初めての一般質問でした。きのうのこのように思ひ出されますが、あれから1年がたち、この1年経験したこと、またいただいた多くの御指導、それらこれからの1年にしっかり生かしていけるよう努めていきます。よろしく願ひいたします。

今回はスライドにもありますように3つの項目について質問を行います。時間も限られておりますので、早速質問に入らせていただきます。

市長は今議会において子育て支援、教育の充実に努めるということを繰り返言われていました。

ことし4月からは、首長と教育委員会が同じテーブルで教育について話し合う場として総合教育会議が始まりました。

文科省が出している資料によると、総合教育会議は首長と教育委員会が教育行政の大綱や重点的に講ずべき施策等について協議調整を行う場であり、両者が教育政策の方向性を共有し一致して執行に当たることが期待されるとあります。

武雄市においては、この総合教育会議について、名称をこども教育会議とし、開催頻度もほかの自治体とは違って武雄市は毎月開催するようになっていました。このように総合教育会議について、武雄市はある意味独自の特色を持って取り組まれるようになったわけですが、そういった独自の部分を含め、武雄市として、このこども教育会議にどのように狙いを持たれているのか、この点についてまず答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まずは国から設置を各自治体に言われた総合教育会議。これは、私はやはり子ども施策、教育施策をもう一度子ども目線で見直す必要があるだろうということで、名称を先ほどおっしゃいましたとおり、こども教育会議というふうに変えたところであります。

月1回の開催でぜひ実効性のある会議にしたいというふうに考えております。単なる意見の言いつばなしではなく、少なくともその中で話を整理し、そしてできるものについては方向性をその中で定めていくということで、従来の、先ほど申しましたけれども言いつばなしで、ありがとうございましたと終わる会議にはしたくないというふうに考えております。

最後ですけれども、特にこれまで教育については教育委員会がありまして、そこで議論をされておりましたが、もはや武雄市にはこども部と教育部というふうにあります、子ども施策、教育施策、これはやはり一貫して行うべきだろうというふうに考えておまして、そういった横断的な施策を話し合う場ということで、教育委員会とはまた別の場として私たちは位置づけております。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

ちょっと戻りますが、先日、画像に出してますのは5月に行われました第2回のこども教育会議の様子です。私も傍聴させていただきました。

率直な私の、ちょっと感想なんです、当日ですね、首長ということで市長のほうが議長を務められてですね、教育委員さんの意見に対してその意見を書きとめられたりとか、皆さんの意見をまとめたりとかという形で、すごく市長自身の動きというか立場は大変だなというふうに思いました。

ある意味ですね、私思ったのは、例えば進行役をだれかほかの方に設定してですね、市長は市長としての立場で、首長と教育委員会が向き合う場というふうになってますので、より市長の立場としての色が出せるような形での運営というのがあってもいいのかなというふう
にこのとき思ったところでした。4月、5月とこれまで2回行われてますが、そういった運営等についても何か思い感じたことがあれば答弁を願います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先日の議会でも、山口議員のときにお答えしたんですけれども、何せ初めての会議でして手探りでやっている状況であります。

前回は私が座長ということで、いろいろ皆さんから出た意見を限られた1時間ないし1時間半という中で、まとめるのが正直精一杯だったというところがあります。

これについては、私も終わってこのままじゃまずいなというふうに思いましたので、次回の6月のときにはですね、私もしっかりと意見を述べて、そして大きく方向性をつくっていただけるように運営体制を変えていきたい、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

初回ですね、こども教育会議の中で、議事録がホームページにも載ってますが、そこで市長の意見としてですね、教育大綱の策定は最終的に首長の責任でつくることになるが、武雄市はどういう子どもを育てたいのか、骨太の基本的な部分を本会議で議論し大綱に反映させたいとありました。

改めて、この武雄市におけるこども教育会議の今後の予定、スケジュール等含めてですね、また教育大綱の策定についてどのように進んでいくのか答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

月1回の開催で大綱は秋ごろの策定を予定しております。

ほかの自治体が、優劣はないんですけれども、例えばほかの自治体であれば、そういった教育の計画から抜粋して大綱をつくるとか、細かく事業が書いてあるとか、そういった大綱も見受けられますけれども、私は武雄の子どもたちをどのように育てたいのかというこの1点をシンプルに、市民の皆さんにも読んでいただければすぐわかるような形で、シンプルに薄く明確に大綱をつくっていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

そうですね、市長自身子育て支援、教育の充実に努めていくというふうに言われてますので、このこども教育会議もよりよい運営がなされて大綱にしっかり反映されるような形になっていけばというふうに思っておりますので、今後についても期待をしております。

では次の項目へ移ります。次は介護予防事業についてです。

さきの3月議会でもですね、町ではなくて地区での介護予防教室について伺いました。そのとき市長は答弁でですね、専門的なものは地区単位というわけにはいかず町単位ぐらいかなと思うが、だれでも参加できる、いわゆる健康づくり予防は地区単位というのが基本で進めていくべきじゃないかなというふうに考えていますとありました。

武雄市でも町単位でたっしゅか教室としてですね、35名の募集で、その介護予防教室が開催されています。これは介護予防の専門の指導員の方が講師として月2回、計16回、1年間教室が行われています。

ただ市長の3月の答弁にもありましたように、だれでも参加ができる、そして私も思います、歩いて行ける、より気軽に参加できるとなると、やっぱりその方が住んでる地区での開催、地区の公民館等での開催じゃないかなというふうに思います。

昨年秋から、私も永島地区のほうで介護予防教室を月2回させていただいておりますが、ありがたいことにほかの地区の方からも私の地区でも開催したいという声を複数今いただいております。

ただ私が、なかなか動くというのは厳しい部分もありますので、もともとの狙いがいろんなところに広がっていけばいいなというふうに思ってモデル的にもやろうというふうなところでしたので、このほかの地区でも開催したいという声を受けるという意味でもですね、また広げていくという意味で1つ提案をしたいと思います。

市としての今後の介護予防事業の展開はということであります。戻ります。

提案としてはですね、例えばこういうふうに専門の講師に来ていただいて、月に1回程度地区の公民館で介護予防事業をしたいと思います。

ただし、その地区がどんどん増えていけば講師の動ける範囲というのも限られてますので、そこは運営が難しくなりますので、将来的には自分たちが自分たちで行う。

例えば、サロンの中にそういった活動を少し組み入れて自主的に運営できるような形にならせていけるようにというところでもですね、最初1年間は専門の方、例えば理学療法士とか健康運動指導士とか健康運動実践指導者とかいますが、そういった方たちに依頼をすることもあります。

今ですね、いろいろな地区で学校と自治体が連携して介護予防に取り組んだりというのがあっております。武雄市もリハビリの学校があったり看護の学校がっております。

私も思うのがですね、その学生さんがそういった形で地域に入れてそういった体験をしたらですね、その学生さん自身も卒業してから必ずメリットがあると、その経験が活かされる部分が出てくると思います。

もちろん、それを提携することによって受ける自治体としても、そういう形で指導に来てくれるわけですからメリットがあります。

そういう形で学校と連携を組んでですね、まあ学校に限らないですが、例えば学校と連携を組んで広く介護予防事業を展開すると、そういったことについて提案をしたいと思いますがどのようにお考えでしょうか、答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今現在、介護予防事業ということで言うと、たっしゅか教室。これは各町の公民館で実施をしています。

ただ私前回の議会でも申し上げましたとおり、やはりそういった介護予防、体操教室などは、各町の公民館よりは自治公民館でまさに歩いて行ける範囲で実施をするのがふさわしいと思っております。

さらにあわせて言いますと、豊村議員おっしゃるとおり、やっぱり行く行くは自主的な運営が必要であろうというふうにも考えております。

永島元気隊も初めですね、我々もこれは市内数箇所モデル的に事業を行って今後どうやって自主的な運営につなげていくかというところは、数箇所選んだモデル事業を今年度秋以降に実施をしていきたいと思っております。

リハビリテーション学校などとの連携については、いいアイデアだというふうに思います。学校側にとっても、やはり生徒の指導というか教育の充実という点でも学校側にもメリットがありますし、生徒側にもおっしゃるとおりメリットはある。運営側にもそういう専門家のような方が来ていただけるということでメリットがあると。

市にとってみると、それがきっかけでひょっとしたら武雄にやっぱりずっと住もうと思ってもらえるきっかけとなるということで、それぞれにメリットがあるというふうに思っております。ぜひここはですね、モデル事業もやる中で依頼をして組んでいきたい、そのように考えています。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

モデル事業の展開ということと、その学校との連携について動いていきたいというふうなことの答弁がありました。ぜひですね、その展開のときには私も様子を見させていただくと

どうか、かかわらせていただいで一緒に取り組んでいけたらなというふうに思いますのでよろしくお願ひいたします。

次にですね、認知症予防について伺ひます。

これまでも認知症の話出ております。65歳以上の4人に1人が認知症とその予備軍というデータが厚労省からも出されています。もちろん武雄市においてもその条件は同じであると思ひます。

武雄市においては、これまでも認知症予防サポーター養成講座の開催など行われており、また先月5月からは永島においてですね、これ画像ですけれども永島地区で認知症予防を目的とした音楽療法ズンドコ教室が始まりました。

認知症については、個々人がもちろん予防に努めるということも大事ですが、周囲の方、地域がしっかり理解をして支えるということが大事になります。

そこでですね、例えばこのズンドコ教室の展開も含めてですが、市としてこの認知症予防についての取り組み、今後どのようにとっていかれるか、そこについてお伺ひいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

認知症予防については、先ほどおっしゃったとおり音楽教室、ズンドコ教室ですかね。あとは、ズンドコって何でそんな名前がついたんだろうというふうにも思ひますけれども、ズンドコ教室とあとは脳健康教室というのを今年度モデル的に実施をする予定であります。その実証を踏まえてですね、私としては、やはり各町の公民館でその検証踏まえて順次実施をしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

平川くらし部長

○平川くらし部長〔登壇〕

認知症の今後の、今地域での予防について市長のほうから御答弁申し上げました。

もう一つございますのは、認知症につきまして議員のほうから御説明ございましたサポーター養成講座、こういったこともこれまでやっておりますが、認知症の対策については大きく2つの柱というのを考えております。

もう一つありますのは相談、認知症の相談というのがもう一つの大きな柱としてございます。これにつきましては、29年度までに認知症の初期の集中支援チーム、こちらのほうのチームを設置する予定で進めております。

これにつきましては専門の医師、それから保健師、介護職、こういった職種の方々に構成をいたしまして、御本人さんあるいは御家族の方からの御相談に応じるという体制を整えてまいりたいと思ひております。

これに先立ちまして、既に今年度から地域包括支援センターの中に、保健師が認知症地域支援推進員資格を既に取得をしております、既に今年度から御家族の方あるいは御本人さんの御相談、こういったものにも応じる体制を整えているところでございます。

そして先ほど御紹介いただきましたサポーター事業、これにつきましては市民の皆様にもきちっと認知症について知っていただきたいという事業で進めてきております。これも引き続き、きちっと講座のほうは引き続きやらせていただきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

専門の方も入ったりしてですね、具体的にこれから進んでいくんだなというふうなところが見えました。

ズンドコ教室はですね、ズンドコのズはリズムのズだったです。すみません、あとはちょっと覚えてませんが、健康課の平川さんが一生懸命考えられたものです、はい。

介護の分野では介護報酬のマイナス改定等もありまして、事業者の方からはそれに対する影響というの伺っております。

将来的に自治体としましては、地域包括ケアシステムの構築っていう部分があります。その各事業者の方も今後市がどういうふうに進んでいくんだろうというのは、やはり注視をされているところであります。地域の中でいろんな事業者があります。

そういった各事業者についてもですね、また今度地域ケア会議が他職種の方で始まったというふうなところも伺っております。これまでケアマネージャーさんだけだった分が、いろんな職種の方も入っての会議が始まったということで、そこでやはりしっかり現場の声を伺いながら地域の課題について取り組んでいただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

それでは次にいきたいと思います。次は地域活性についてです。

まずその中で保養村について伺います。スライドに出してますのは、ことしの春に行われました武雄温泉大駅伝の分のホームページに載っていたPRのポスターだったと思います。

この駅伝ですね、私も見に行きました。すごくいろんな色のユニフォームを着た方たちがたくさんいらっちゃって、また地域の方も沿道でこう手をたたいて拍手をされて応援されたりと非常にいい大会だったというふうに思っております。

今回初めてこの大会が保養村のほうで開催をされたわけですが、改めまして総括としましてですね、この大会のきっかけ、また当日に至るまでの準備とか経過、それと当日の参加者数であるとか、また例えばこの駅伝に関して宿泊があったとかというのがあればそういった数についても伺いたいと思います。

またあわせて、やはりぜひ来年も実施していただければというふうに、地域の方もそうい

うふうに願っております。そこでですね、来年度の予定についても現段階でわかっている部分があればそこについてもあわせて答弁を願います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えをさせていただきます。モニターをお願いいたします。

（モニター使用）まず開催にあたりましたきっかけでございますが、主催者であります西日本新聞のスポーツ新聞でございますが、こちらのほうの創刊 60 周年及びTVQの開局 24 年を記念いたしまして、これまで福岡ドームで行っておられました、例年行っておられたリレーマラソンでございますが、これを屋外でということでお話をいただきました。市内でいくつかの候補地を検討する中で、保養村での開催に至ったという状況でございます。

この画像でございます。たくさんの方にお見えいただきまして、151 チームでございます。選手だけでも 859 名の参加を見まして、会場には 1,500 名の皆様方にお見えいただいたという状況でございます。

このように会場となりました宇宙科学館の駐車場でございます。その際に地元の永島区を中心にですね、歓迎の、こういった横断幕等で、歓迎をしていただき、また激励の看板等もつくっていただきましたし、沿道にはたくさんの方が出ていただきまして選手にエールを送っていただいた状況でございます。

こちらのほうは特産でありますイノシシ汁の振る舞いを行いまして、婦人会の皆さん方にも御協力いただいたという状況でございます。そしてレモングラスのですね、特産品もPRをさせていただいたという状況でございます。

さて今回につきまして、市内でのリレーマラソン大駅伝につきましては初めてでございましたけども、たくさんのお評価をいただきました。

特に成果としましては、宿泊の御質問がございましたけども、当然スタッフが何泊も泊まっておりますのでスタッフは当然宿泊をしておりますし、選手の皆さん方も遠くからお見えいただいていたので、中には海外からの方もお見えいただいていたので、そこについては宿泊につながったということでございます。

また参加賞に入浴券をお渡ししまして、武雄温泉のよさも味わっていただいたということで、そういった面では成果があったのではないかと思います。

さらにですね、地元のおもてなしとして 6 店舗が出ていただきまして、それぞれ特徴のあるおもてなしをしていただいたという状況でございます。

来年度以降でございますが、今回はことしの 4 月 4 日土曜日に開催をさせていただきました。ぜひ終わった後にですね、すぐに主催者のほうにも来年も開催していただきたいという要望をしております。

来年の開催に当たっての課題としましてはですね、やはりことしは859名の参加でございましたけども、より多くの方々が参加いただくということは必要かと思えます。

若干ことしにつきましてはPRの期間が短かったせいもございまして、できるだけ早めにPRをしながらですね、より、また選手の皆さん方のおもてなしも向上させるということで、より多くの方に来ていただきたいと思っております、引き続き来年、次回開催に当たってお願いをしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

これについては先ほど部長から答弁ありましたとおり、終了後私も早速西日本新聞社とTVQのほうに、幹部に要望に行っていました。ぜひ実現に向けて積極的にトップセールスをしたいというふうに思っております。

あとつけ加えですけども、外からの集客、これも大事です。

加えて観光課だけではなくて、例えば婚活とかにも使えるんじゃないかなというふうに私思っているんです。私が出たりレーマラソンには男女ペアでいかにも婚活だろという人たちが来て、でもそれ、すごい仲良くなっているから、例えば婚活であるとか、あとは市民の健康づくりであるとか、そういった一石二鳥ではなくて一石三鳥にも四鳥にもなるようにこれは全力を挙げて誘致をいたしますし、実現すれば市内横断的に対応したいというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

市長が今言われました婚活というアイデアですね、あーなるほどなというふうに思いました。いろんなアイデアを持ってですね、よりよい魅力ある大会になればなというふうに思います。

部長のほうからもありましたようにPRという部分でですね、やはりその声は私も多く伺いました。

いろいろ準備をしたりとか、こういうのがあるらしいねというふうなところで、どういうふうに動けば、例えばボランティアとしてどう動けばいいんだろうとかっていうときにですね、なかなか組織体制というかそこがちょっと明確じゃないようがありましたので、来年はですね、例えば市のほうでも——例えば有田のほうはですね、リレーマラソン実行委員会というふうな形でパンフレットにも書いてあるのをちょっと見たんですが、明確な組織体制があつてその中できちきちとお互いが共通認識で動けるような形ですね、取り組んでいただけたらというふうに思っていますのでよろしく願いいたします。

また来年——ことしは宇宙科学館がちょうど工事中ということでその前が使えたということがあるんですが、そういったコース的なこととかですね、いろいろ課題もあると思いますが、ぜひとも開催につながるようによろしく願いいたします。

スライドを戻してもらっていいでしょうか、はい。

その保養村についてですが、私まだ議員となって1年ということで、まだまだ経験というのは少ないところでもあります。その中でもですね、地域の方であるとか、その運営に携わられている方たちとですね、今までこの1年間意見交換を進めてきました。

ただですね、皆さんやはり保養村の活性については願ってらっしゃいます。

実際にのぼるくんが廃止になったということもあるんですが、どういうふうに今後保養村はなるんだろうというふうな中でですね、例えばこういったことをしたらどうだろか、こういったことをしたらどうだろかっていうアイデアはですね、いろんなところで出てきたりっていうのはあります。

私もその活性につながるような形でというふうに取り組んできたんですが、実際なかなかその皆さんの思いとかアイデアをこう形に結びつけるっていうのが、私の力不足もあるんですが、なかなかこの1年難しかったなというふう感じたところです。

そこを踏まえてですね、これからの分方法として切り口をちょっと変えてやっていくことが大事かなと思って、保養村の活性についていろんなアイデアがあったりするものをしっかり協議のルールの上に乗せて、例えば目標決めてこういうふうな形でやっていこうとかですね、具体的に進めれるような形で取り組み方自身を変えていくことが必要かなと思って、その点観光課さんとか協力会さんとか地域の方もその点について意見交換をさせていただきました。

市長自身も、保養村についてはこの大駅伝の後のブログのほうで第2の大濠公園となるポテンシャルがあるというふうに書かれていたりとかですね。部長のほうも保養村協力会の総会のほうで、今後の保養村の取り組みについてお話しをしていただきました。改めてこの保養村について、今後どのように市として考えていかれるか、その点について答弁を願います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私が第2の大濠公園にというふうに申ししたのは、あれは確か大駅伝のときだったと思います。ランナーの皆さんが楽しそうに走っているのを見てですね、これは福岡市中央区にある大濠公園と姿がダブったということで1つのアイデアとして申しました。

御存じのとおり大濠公園はジョギングをしてる人、ウォーキングをしてる人、あとは鉄棒にぶら下がってる人だったり、あとスタバもありますのでベビーカーをですね、何ですかね、こうママたちがベビーカーを引きながらスタバでコーヒーを買って飲んでゆっくりしていた

り、老若男女が健康づくりであるとか、リラックスしながら過ごしているという公園であります。

今回保養村を改めて見ますと、池ノ内湖が1周2キロであると、私も職員時代週1回池ノ内湖でジョギングをしておりました。健康寿命を延ばしたいと思ってやってたんです。(笑い声) これはまあ非常に走りやすいというところはありましたしウォーキングしている方もいました。

温泉も近くにありますので、例えばそこで着替えて走ってお風呂に入るということでは今の状況はすごく魅力的だと思いましたが、あとバーベキュースペースがある公園もある宇宙科学館もリニューアルするというので、大濠公園と同じように健康づくり、要はヘルス、あとスポーツ、あとは親子のレジャー、そういった施設として大規模に整備をしなくても現状を活用することで魅力を上げられるのではないかと、そのように考えています。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

今市長のほうからお話いただきました。

担当部さんのほうからは、この点について今後の計画について答弁ないでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長（発言する者あり）（笑い声）

静かに。

○井上営業部長〔登壇〕

すいません、順番が間違っておりました。

市長の思いが、今おっしゃっていただきましたので、その市長の思いも含めて具体的にどういうふうにするかということをおもとしては実現したいというふうに思っております。

したがって大濠公園というイメージは普段からですね、市民の皆さん方が、いろんな形で老若男女使っていただく、特に子ども連れの方に安心して使っていただくという形だと思いますので、そういった意味では先ほど山口昌宏議員のときにも御答弁させていただきましたが、今の保養村のゾーニングがございますので、そのゾーニングに沿ってどのように使っていただいたほうがいいのかということでございます。

そのための御提案をさせていただくために具体的に市としてはこのような使い方といたしますか、このゾーニングについては考え方を持ってるということをお示しさせていただいて、保養村の管理をしていただいている保養村の協力会の皆さんでありますとか、地元の皆さん方、そして特にまた子育て中のお父さん方、お母さん方聞きますと、子育て中のお母さん方については、安心して子どもたちを遊ばせれる、少し遠くと言いますか、離れた距離であってもそういったところで遊ばせれるスペースが欲しいというような御意見も頂戴してま

で、そういったことも含めながら具体的にどのように活用していただくかということを含め、今後検討したいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

市の提案も含めながらですね、そこに関する人たち、また地域の方、子育て中の方たちが意見を出しながら自分たちでここをどういうふうにしたいかということも含めですね、やはり全部を市から提案してもらってということじゃなくて、自分たちもやっぱり一緒に取り組んで考えて運営につなげていく、そういう形が一番いいのかなというふうに思いますので、今後の流れについてですね、しっかりそこは進んでいくようお願いをしたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは最後になりますが、市街地活性と民間活力についてということでお伺いいたします。

これは市のホームページの中のお住もう課さんのお住もう部屋のページですね。この中に起業をしたい方というふうな形で空き店舗に対する支援の分のところも載っております。

私もですね、温泉通りを歩いたりとかする中で、歩行でやっぱりお店があいてて人が並んだりしたら、またちょっと違うだろうなというふうに思ったりもしていました。そういったところから、今回さまざまな人と意見交換を、空き店舗というところを切り口に意見交換をさせていただきました。

まずお伺いします。この現状の空き店舗対策について、その支援制度について答弁を願います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お尋ねの空き店舗対策でございますが、現在の支援事業といたしましては、武雄市中心市街地活性化支援事業補助金という名称で空き店舗対策についての補助を行っております。

補助率は県が3分の1、そして市が3分の1、そして自己負担という形になっておりますが、限度額を150万に設定いたしまして支援をしているという状況でございます。

ただしこの県のほうの事業でございますが、商店街に対する補助でございますので、対象エリアとしましては温泉通り、宮野町通り、中町通りの各商店街でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

それではあわせて伺います。この制度につきまして、これまでの過去の問い合わせである

とか、また実際に店を開くに至ったそういった実績等について、問い合わせも含めて回答お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

問い合わせも含めてでございますが、平成21年度から数字を申し上げたいと思います。

平成21年度の実績としましては、店舗として配置をいただいたのが2件でございます。それから平成22年度から23年、24年それぞれ1件ずつ実績がございます。平成25年度につきましては、相談実績が10件ありましたが残念ながら出店に至ったのはゼロでございます。同じく平成26年度、相談実績は6件でございます。申請にまで至りましたが、申請者の都合によりまして取り下げがありましたものですから、最終的には出店はゼロであります。

なお平成21年度から24年度まで出店いただきました5店舗でございますが、こちらにつきましては現在も営業を行っていただいているという状況でございます。残念ながら21年から24年までの相談の件数については持ち合わせておりません。申しわけございませんが、そういう状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

平成21年は2件、22年から23、24年は各1件で、25年、26年は実績としてはないが、問い合わせは平成25年に10件、平成26年に6件の問い合わせがあつてると。

まあ問い合わせが、ほかのところからかとは思いますが、ここで店を開きたいというふうな形で、まずどんな形、その制度についての問い合わせかもしれないですが、やっぱりそれだけの方が興味を持って問い合わせをされてるという状況があればですね、何とかうまくつながっていけばなというふうに思うところが率直なところであります。いろんな要因があるとは思いますが、実績として至らなかった、そこまでに至らなかった要因っていうのはどういったことが考えられるでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

議員御指摘のとおりですね、せっかくお話しをいただきながら実績につながらなかったという状況がありますが、その主な原因としましては、やはり物件、不動産を、所有者の方と出店を希望されます業者の、事業者の方ですね、そちらとの意見の相違といいますか、賃料も含めてそうでございますが、例えばその物件を改善したいと、改装したいというときにですね、所有者の意見がどうしても反映できないといいますか、希望と合わないとかですね、

そういったところで大体におきまして、そういった意見の相違でなかなかまとまらなかったということが主な原因だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

なかなかですね、ここは難しい問題があるのかなというふうに思いますが、私今回その空き店舗ということを切り口に、先ほども言いましたようにいろんな方と意見交換をすることで、店舗ということよりも広く町ということを見ていかないと難しい面もあるのかなというふうに思いました。

その点についてはまた後ほどお伺いしますが、先ほど空き店舗対策についてはエリアが限定されててそこでの、今、制度がありますということでした。先日もちょっとあったんですが、もちろんそのエリアだけじゃなくてほかのエリアで起業したいという方も、店を構えたいとかいう方もあると思います。現在ほかの起業についての支援制度、そういったことについては武雄市としてはどういうふうにあるでしょうか。その点について答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

議員御質問の中心市街地以外エリアのですね、周辺部におけるそういった創業に対する支援はないかということですが、現在のところ制度としてはございません。

ただし、ごく最近でございますが、経済産業省と総務省におきまして、創業支援事業計画を提出した市町につきましては認可制度があつておまして、そちらについては、いろんな補助制度と言いますか、そういったものが受けられるという制度がございます。武雄市はそちらのほうに事業計画を提出しまして、先ごろ、直近でございますけれども、その認可を受けたところでございます。

したがって今後はですね、貸し付けの優位でありますとか、それから補助金を申請しまして、その制度を受ける等々が期待できますので、そういった意味では周辺の部分につきましては創業についても、市としても支援をしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

これまでのエリア、限定されたエリア以外の分もそういう制度が今後はあると。

ちょっと聞くとところによりますと、その制度も審査等もあつてなかなか厳しい部分もあつたりするのかなというのをちょっとお伺いしましたが、ただまあこういう制度があることによつてですね、より武雄市のほうにという方が出てくる可能性というのも高まるわけですか

ら、あわせてPRのほうもしていただければなというふうに思っております。

そのPRという分で、続いて情報発信PRということについて伺います。

業を起こす起業という点ではですね、まず第一に民間の方の頑張りがあってというのがもちろんありますが、武雄に来ていただく、武雄で店を構えていただくということだけじゃなくてですね、市として市外のほうにもPRというのがあると思います。これまでも特産品のPRであったりとか観光についてのPRであったり、そういったことが市外県外に行われてると思います。これまでのPRについての実績等にも答弁をいただけますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

武雄市につきましては、県内外について観光物販のPRをしております。

平成26年度の実績を地域別に申し上げますと、九州圏内が9件、それから中国四国圏内が1件、関西圏内が3件、関東が6件、北信越東北圏内が1件、そして北海道が2件という形でございます。

形態としましては、観光PRに合わせて特産品のPRを行っているという状況でございます。我々は物産まつりの実行委員会や、それから特産品の振興協議会が市にございますので、そういった皆さん方、あるいは楼門朝市に出店いただいております実行委員の皆様方、そういった皆様方にお声かけをしてですね、どういった場所で行っているかと言いますと、友好都市を初めとする自治体でありますとか、あるいは有名百貨店、そしてそういったところで観光PRと合わせてやっております。

出店いただきます皆様方の出店の負担金については、市が持っております、免除をさせていただいているという状況でございます。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

スライドで出してますのは観光客の推移ということで出しております。年々、先日の答弁のときもありましたが、宿泊客数、日帰りの方の客数も伸びていると、そういう状況です。

先ほどありましたPRについて、事前に私もちよっと資料いただいたので地図の中に落とし込んでみました。これは特産品のPRで行かれた、例えば1つのところに複数行かれている分も1つの丸でしか出してませんが、こういった形で全国ですね。これはもちろん販路拡大というふうな形で、全国へのPRっていうのがあるのかなというふうに思います。

次はですね、観光についてのPRですが、これはちょっと九州内の分だけ出しております。この黄色で示してありますのが武雄市です。それ以外の部分で有田、長崎市、熊本、福岡等に行かれております。

この分で行かれた、平成 24 年 4 月には福岡のほうに行かれたというのも表でちょっと出してるんですが、率直に思ったのが、ぐるっと周りへの P R というのが実績としては行われていないのかなというふうに思いました。

そこです、長崎県佐世保ということをちょっと触れますが、これ西九州道路整備計画の図です。国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所ホームページ内から引用させていただいております。これは連絡をとって引用していいという許可をいただいております。

例えば西九州道で見たときに、私も佐世保に兄貴がいたりとか同級生が何人もいたりして話を聞いたりするんですが、今後、佐世保から伊万里、福岡のほうにというふうな形でルートがあります。もちろん今まで東に行くには武雄のほうにという形でした。

これは同じく西九州道のことについて、先ほどの九州地方整備局佐賀国道事務所ホームページに掲載してある分です。西九州道がつながってくることによって佐世保から伊万里、唐津、福岡へとぐーんと 90 分時間短縮になりますよというふうな形で P R されてあります。

私の兄たちの、ちょっと、意見ではあるんですが、佐世保にいて温泉と言ったときに武雄もある、もちろん、そして嬉野もある、今後もしかしたら伊万里という部分もあるかもしれないと。

やはり何か目的を持って行くとなったときには、やはりそこがどういった町で、目的を持って行きたいと、この町はどういう町であるから目的を持って行くと、そういうふうにあると、そういった意見が聞かれていました。確かにそういった部分あるだろうなと思います。

そこです、観光ということだけではなくて生活圏として車で 1 時間圏内と言えば長崎、福岡あたりもなってくる場所です。

先ほど長崎佐世保と挙げたのはですね、メディアの分です、佐賀県はテレビでいえば S T S さんですね。福岡のテレビ局が佐賀のコーナーも持ってて、そこで P R じゃないですけども情報発信っていうのもあったりします。逆に長崎はですね、そういう形がないです。私も長崎離れて何年かありますが、そういった形はないです。

ですから情報を受け入れるという分ではですね、同じ隣の県であっても福岡と長崎という部分ではちょっと違うのかなというふうにそれは思ってる場所です。

その中で先ほどの西九州道のこともありました。この中でですね、これ先日もありました観光客の割合ということで、宿泊客、県内が 23%、福岡 24%、佐賀、福岡を除いたそれ以外で 17%、もちろんここに長崎も含むわけですよ。かなり割合としては、まだまだ少ないのかなというふうに思っております。

観光 P R ということだけじゃなくても先ほど言いましたように生活圏として、例えば通勤圏内であるとかという部分で周辺地域に対しての P R を、観光 P R だけじゃなくて。

例えばお住もう課の森さんとかですね、そういった人を連れて行ったりとかですよ、何ていうんですかね、こう移住についてのアピールをしたり相談をしたりとかですね。

場合によっては、市長も武雄の強みっていったら子育て、教育であるというふうなことを言われてます。教育のほうですね。タブレットを持って行って実際の授業の風景、流せるかどうかわからないですが、そこをモニターで出してみたりとかですね。

あとは例えば地域の民間の不動産の人が行ったりとか、もちろん物販の人たちが行ったりとか、オール武雄で観光という枠組みだけでなく広く武雄の宣伝隊として近隣のほうに情報発信をしていくというのは、一つ交流人口をふやすということになってくるんじゃないかなというふうに思います。

もちろんその中で民間の方も行くことによってですね、現場の雰囲気も味わえるでしょうし、そこでまた帰ってからより魅力を高めようというふうな形にもつながると思います。

そこで先ほど言いました周辺地域に対しての情報発信について、私が今言いましたように、観光ということだけでなく宣伝隊というふうな形でもあるのではないかと思います、この点について見解をいただきたいと思います。答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今のお話を聞きまして、確かに福岡のテレビ局を見てると福岡、佐賀と映ると。確かに夕方のテレビそうだなというふうに思っております。

今後の交通体系を考えた場合に長崎新幹線ができる。それで20分の範囲になると。

これからはですね、我々も今まで福岡に向けてのPRっていうのが比較的多かったと思うんですけども、ちょっと長崎を意識してぜひPRをしていきたいというふうに思いました。東、西それぞれに向け、我々も情報発信をしていきたいと思います。特に長崎については今後力を入れていきたいと思っております。補足あれば部長から答弁をいたします。（「答弁ないて」と呼ぶ者あり）すみません、ありませんでした。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

そうですね。やはり積極的に周辺地域に対して動くことで、また変化というのは出てくるんじゃないかなというふうに私は思っています。

その交流人口をふやす。もちろん遠くのお客さんを引っ張ってくるというのもあるんですが、よりふらっと行ける気軽な生活範囲として情報発信に努めていただきたいと思います。

それではですね、市街地活性というような形でお話をしました。これも今までも話、質問の中にも出てました。

ちなみに1999年に武雄市中心市街地活性化基本計画というのが出されております。私も中身を全部見ました。ただ現在ですね、これまでも話があつてますように図書館、年間約100

万人の方が訪れる図書館とあって人の動きっていうのが広くですね、またオルレ等もあって広く変わってきていると思います。

私はその基本計画をつくってくださいということではないんですが、それぞれのエリアにおいてカラーもあるのかなというふうに思います。この中で広く今の人の動きを、動線を見たときに、どういうふうに町のデザインをつくれるか、コンセプトを持たせることができるか、そこが大事なかなというふうに思います。

そこが最初に言いました空き店舗という部分です、話を、意見交換をするときにもキーワードとして出てきたところであります。町の活性についてのキーワードということで、その町にコンセプトがあるかとかですね。

あとは人。どういう人がいてどういうふうに引っ張ってくる。またほかの方との交流をどうつなげてくるか、人がキーワードであるということがありました。

そこで町をどういうふうにデザインするか、そのことによってより魅力ある町につなげていくっていうことが大事なかなというふうに思っております。これからのまちづくり、市街地活性化に向けて、その町のデザインという点を含めてどのように考えられるでしょうか。その点について答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先日、新幹線プロジェクトにおいてですね、今後、特に市街地をどうしていこうかということ今年度議論していきたいというふうな話がありまして、私は非常にそれは期待しているところであります。

町のデザインというと当然中身をどのようにデザインするかというところは大事ですけども、恐らくそのプロセスのデザインというのがこれから大事になってくるというふうに思っています。だれかが決めたのをそのとおりにやるのではなくて、決まるまでにどのように民間企業の方、市民の方を巻き込んで、そしてつくっていくかというところが大事だと思っています。

今後庁舎もありますし、34年には新幹線の開業があります。そこに向けて今市街地のビジョン、計画というのは今後つくっていく必要があるというふうに思っております。一つ新幹線プロジェクトというのはたたき台になりますし、それを、計画をつくっていく上では、まさにそのプロセスを大事にしていきたいと、市民参画のプロセス、これを大事にしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

町のデザインというところ、いろいろ調べたときに、延岡市で町のデザインということで検索してもらったら興味深い部分が検索できます。ぜひ皆さんもですね、ちょっとそこ調べていただきたいと思います。

市民の方が一緒になって町のことについて取り組んでいく、そういった取り組みがされますので、今後武雄市も民間自身と一緒に動いて取り組んでいけるように、そして魅力ある町となって武雄に行きたいというふうな町になってくる。それが市街地活性、民間活力につながってくるのかなというふうに思いますので、ぜひともその点についてよろしくお願いたします。それでは私の質問を終了いたします。

○議長（杉原豊喜君）

以上で1番豊村議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、5分程度休憩をいたします。

休	憩	11時18分
再	開	11時25分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、7番池田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

皆さん、こんにちは。議長より登壇の許可をいただきました、7番西方クラブ池田大生の市政事務に対する一般質問を始めます。一般質問最後の4番目となりましたが、まさか午前中に入るとは思っておりませんでした。最後までよろしくお願いいたします。

今回は大きく2点、教育と市政運営について通告をいたしております。よろしくお願いいたします。

教育についてであります、ICTを活用した教育で全小学校にタブレットが導入され、1年2カ月が経過しようとしております。また今年度より全中学校にも導入をされました。

5月28日には今年度初めてのスマイル学習オープンデーが東川登小学校で実施され、私も参加いたしました。小松市長も忙しい中見学をされました。私とも現場でお会いしましたけれども、授業終了後子どもたちからサイン攻めにあい絶大な人気ぶりを発揮されておりました。市長として、見学されてどう感じられたのか最初にお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私も現場に行きまして一番感じたのは子どもたちの楽しそうな表情です。楽しそうな表情を見ていると、ああこの事業を継続して進めてよかったなというふうに心の底から実感いた

しました。

やはり子どもたちが楽しく学べると。楽しく学べるということほど動機づけとして強いものはないと思っています。引き続きこのICTの事業については、さらに前に進めていきたい、そのように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

ICTを活用した教育について、6月9日に第1次検証報告ということで記者発表がなされたところですが、この報告をどのように捉えられ、どのように生かされるのか教育長にお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用） こういう形で正式に出していただいております。

私どもが主観的に評価するだけでなくということで客観的な評価をいただいているところです。

一番客観的な資料というのは全国都府県の学習状況調査があるわけですが、これを待っていたら8月ぐらいになるわけですので、1年を振り返って今年度からさらに改善したり取り組んだりすることがないかということで報告をいただいております。特に最後のほうに課題とか提案とかいただいておりますので、極力早急に対応をして進めていきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

今教育長のほうから答弁のほうにありましたように、課題や指摘、提案なども盛り込まれております。

そこです、学年に応じた情報リテラシー教育の実施、検証結果の的確な反映、スマイル学習が効果的な学年や教科の分析などを提案されておられます。この中でですね、情報リテラシー教育の実施の必要性とあります。この根底にあるのは情報モラル教育であります。

3月定例会議の折にはちょっとした行き違いでちょっとお聞きすることができませんでした。教育長は3月に開かれた県ICT利活用推進協議会の折に、ICTの先進地は情報モラル教育においても先進地でなければならないと覚悟を決めて発言をしてきたとのことでした。

上田議員からも3月議会の折、紹介がありました、武雄市連合PTAの基本方針として携

携帯電話やスマートフォン等は持たせない、裏面には、持たせた場合は保護者の責任としますという基本方針を出されております。

1人1台のタブレットを貸与されておられます武雄市の責任として、その後具体的にどのような取り組みられたのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（資料提示）ちょっと長くなるかわかりませんが、すみません。

今の情報の、発信されている状況というのは、これはもう一市町でどうこうできる問題じゃないというふうに思いますし、国策として進められるものだと思います。もちろん文科省もされてるわけです。

武雄市の場合でありますけれども、スマイル学習を算数と理科の部会で進めていただくときに、並行して情報モラルセキュリティ部会というのを立ち上げて、系統的な指導ということで、こういう形で段階を追ってこういうことを指導するというのを各学校に提案をしてるところでございます。指導もしているところでございます。

そういう形で並行して進めていくこと、それから市連Pから出されたことについてもお話しされましたけれども、これは大変ありがたいと思いますし、学校に持ち込まれる課題が学校だけで解決はできない、家庭だけでもできないという部分ありますので、最も連携して進めなければ効果は出ないし、子どもたちが本当にこの難しい時代に戸惑うことになるということで、大変ありがたく思っております。そういうことで今後も市連Pとも連携して進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

事業と並行して情報セキュリティ部会を立ち上げ指導しておられると。本当にですね、計画的に実行されているということ、その表を見させていただいて思っております。

しかしですね、本当に先ほど言われたように市町単位でできないことほど今の情報社会のほう、ここでは言えないような事態もこの武雄市でも起こっております。

本当に子どもたちの安全・安心を守っていくためにですね、ICTを進めるのと同時に子どもたちの安全・安心のために、この情報モラル教育、しっかりとやっていただきたいとお願いを申し上げます。

そしてですね、このICT教育の検証といたしまして、教育長は客観的な検証をとのことでした。今回の検証は第三者的な立場での検証との捉え方でよろしいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

第三者的という見方も当然です。

それから第1次の報告という形にしております。先ほど言いました8月等の公表を経た後に第2次の報告をお願いいたしてるところです。

これは何を検証するかというのありますので、第三者的ということは一番私どもの主観的な評価じゃなくという形ですね、そういう意味では第三者的ということも言えると思います。

タブレットの導入についてはどうなのか、あるいはその利用についてはどうなのか、子どもたち、教師、保護者、武雄市の教育にとってどうなのかと、あらゆる面からの検証ということになると。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

第三者的ということですね。その学習に対する効果の検証がこの中では大きく占めてるといふふうに私は感じているんですけども。

それと先ほど申されました、当事者として、武雄としてのですよ、武雄市としての主観的な検証もやはり必要だと思っております。武雄として総括的に1年間を振り返って検証されたのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

学習面のほうが中心になってるということでしたけれども、きょうの佐賀新聞等に出ましたように、学習状況等について非常に膨大なものですから検証するには非常に時間がかかるという面で2次報告にはそういう面も含めて出せると思います。

それから武雄市内での評価ですけども、これはもうまさに授業ごとにでも子どもたちの意識とか取り組みについては評価できるわけです。もちろん先生方、校長先生方の御意見等も把握しながら進めていくところです。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

授業ごとに、各学校ごとにもできるということでございます。主観的な立場として現場検証を行った上でですね、それらの情報を共有すると、各学校が共有するということが非常に大切なことだと思います。すべてが融合されてよき方向に向かうと思いますのでよろしくお願

いたします。

冒頭に東川登小学校のオープンデーについて市長にお尋ねをいたしました。市長の感想の中に子どもたちの笑顔、楽しそうに、楽しくタブレットの授業を待ってる姿、私も目の当たりにいたしました。子どもたちもわくわくしながら先生に、タブレットまだ使わんとですかと先生に、詰め寄るじゃないですけどね、先生にそう心待ちにした言葉を聞いております。

そんな中ですね、45分の授業時間で最後の15分でタブレットが使われ、電源を入れIDとパスワード入力し保存、全員がそろうまで約10分ほどかかりました。残り5分くらいで問題とアンケートという流れでした。

毎回IDとパスワードを入力しているのかはちょっと疑問ではありますが、授業中のその折ですね、オープンデーの折の、毎回毎回ありましようけれども、授業中のトラブル、説明会の折の質疑等について教育長、市長に報告があったのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

昨年度は各小学校で年2回、22回、それ以上の情報公開をしていただきました。狙いとしては、タブレットをこういうように使ったらどうですかというようなお互いの研修もありますし、それから普段の使っているタブレットの扱い方等の研修にもなりますし、そういうことで今年度も小学校、中学校各1回はオープンデーを計画をしてもらっております。

そういう形でいろいろ研修をしながら進めているということでありまして、もちろん毎回大事なことについては私のほうも報告を受けております。行けないときも当然あるわけでございますので。

それからその前の年に、タブレット導入する説明会のときに一番心配されたのが、1時間中使えばなしで目が悪くなるんじゃないかと、健康によくないんじゃないかということでございました。

今見られて、こいしこしか使わんとやというような声も聞こえますけれども、あくまで道具として最初、最後、子どもたちの理解の程度を見るということで使ったりしているというのがスマイル学習の現実であります。もちろんほかの使い方もいろいろしておりますけれども、そういうことで、その使うときに休み時間に電源を入れておくとか何とかというようなことも、昨年1年間見て、先生方も随分頑張って研修もしながら進めてもらっておりますけれども、全国でも初の試みでありますので、いろんな、そういうことでお互いに学び合っているという段階のところもあると思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

教育長と市長にということでお願いをいたしたところでもございましたけれども。

オープンデーのときに、3年生の算数で9台中1台のタブレットの電源が入らなかったのかフリーズしたのかわかりませんが支援員の方が交換をされていました。

私の手元にある資料では昨年度故障、不具合総数287件。その中で子どもたちが壊したという破損のケースが31件。原因不明を含め不良品率が約8.1%となっております。この数字が高いのか低いのかわかりませんが、私は高いほうじゃないのかなと思っております。

その第1次検証ですね、この件についても第2次が秋ごろ行われるということでございます。学力調査状況の発表の後されるということでございますけれども、この1次報告書の中にも書かれております。

先生方、非常に頑張ってコンテンツをつくっておられます。先ほど教育長の答弁にもあったようにですね、どのように使っていくかと、使い方についても一生懸命研究をされ、子どもたちの学力向上に努めていくということで非常に頑張っておられます。負担感に感じずですね、確かに新たな負担だと思えますけれどもそれを乗り越え頑張っておられる現場であります。

そのような中ですね、市長、そのとき、質疑応答のときはもうお帰りになられておりました。またそのような報告があったのかなかったのかわかりませんが、予算の権限を持つ、また執行権者としてですね、このような現場を検証し改善し自信を持てるICT教育にする必要があると思います。前に進めていくためにも現場の検証をし改善をしていただきたいと思いますが、市長いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

このICT教育については、浦郷教育長初めスマイル学習課、現場の先生の方々、皆さん一致団結して頑張っていておるところで、浦郷教育長の判断のもととしていただいているところであります。

私と教育長も普段からいろいろ意思疎通をしております。そして現状の課題、今後の方針、そういったあたりについても意見交換をしているところであります。

今後ですね、一時的には教育委員会がそこは進めていきますけれども、私としては信頼できる浦郷教育長を初め教育委員会の皆様と意見交換を重ねて、そしてしっかりと現状を把握して予算にも予算案として反映していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

連携をとりながら前に進めていくと、現状の把握もしっかり努められ予算に反映されると

ということをおっしゃっていただきました。必ず改善をしていっていただきたいと思います。

今回のこども教育会議、今月 24 日でしたよね。討議内容も ICT 利活用教育についてでした。しっかりこの中でもお話しを進めていただきたいと思います。

圧倒的な教育の充実と申されました。教育改革でよい結果ならば何もないでしょう。悪い結果なら犠牲になるのは大人ではなく子どもたちであります。すべては子どもたちのためにお願いしたいと思います。

次に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行され、4月1日より新教育行政がスタートいたしました。総合教育会議も設置され、教育委員会の所管するものが、役割というか、これまでとどう違うのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

教育委員会の仕事はどう違うかということでございますか。

〔7番「はい」〕

御承知のとおり、いろんな、全国的な教育課題が出たときに教育委員会は何をしているのかというような意見がたびたび聞かれました。それは迅速さにおいてそうですし責任感においてそうでありまして、この六、七十年近くの反省のもとに立って、より責任感をもった教育委員会へと、迅速に対応できる教育委員会へとということで改正がなされたわけでありまして、私も新たな気持ちでそれに当たっていると。

武雄市の場合に一番ありがたいというのは、私を除いて9名いらっしゃいます。この9名いらっしゃることが大変いろんな面で新たな気づきを寄せていただいております、新たな考えを加えていただいているという意味で、まさに総合教育会議が、よそで数回というときに毎月と言っていたく市長の思いと連動しまして、より強力に進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

迅速に対応するための今回の制度改革ということでございます。本当に子どもたちの環境、目まぐるしく変わっております。さまざまな対応事項が今後出てくるかと思っております。毎月1回ですね、会議をされている中に緊急事態に備えることも、その中の議論の調整の一つになるかと思っております。本当によろしくお願ひしたいと思っております。

武雄市連合PTAの活動の中に教育委員との懇談会というものがあるんですね、各校のPTA会長が参加をして行われます。私も数度参加したことがあり、思い起こせば教育長とは本当に非常に長い付き合いになっているんじゃないかと思っておりますが、当時からさま

ざまな活発な意見が出ておりました。教育行政にしっかりと反映されていると思っております。

さて1月29日の臨時議会において、新しく5名の教育委員さんが任命をされました。今回は保護者と委員候補とのことで公募をされました。今現在、先ほど教育長のほうからも答弁の中にありました9名の委員さんがおられます。

その9名の委員さんの中にですね、北方の方がおられません。均衡ある教育行政の発展を鑑みて今回5名の募集でありました。中学校校区も5つあります。

要件を満たせば推薦とかですね、そういう方法とかも考えられるんじゃないかなと思いますけれども、ぜひ広く委員さんを配置していただきたいという思いからですが、そういう方法が考えられないのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川政策部長

○北川政策部長〔登壇〕

教育委員の選任ということでございますが、議員さん御承知のとおり教育委員の任命につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第4条第2項で、委員は当該地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命をするということになっております。

この法律を受けて今回2月の任命に関しましては、市内全域からの公募によるということでしたが、地域割りの人選はしてはおりません。教育委員については、あくまでも人物本位でありまして、必ずしも各中学校区に一人ずつということは考えておりませんが、地域のバランスと教育委員会の御意見も聞いた上で人選をして任命をしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

いろんな角度から考えていただくということによりしくお願いいたします。

総合教育会議についてはですね、先ほど豊村議員さんもですが、前日の山口裕子議員さんのほうからも詳しく、私が聞こうとして思っていたこと以上のことを聞かれましたので、こちらのほうはちょっと省かせていただきます。それでですね、教育大綱の策定についても詳しく説明があっておりましたので割愛をさせていただきます。

市政運営についてであります。

平成18年3月1日、旧武雄市、旧山内町、旧北方町の区域をもって新しく武雄市が誕生し、来年で10年がたとうとしております。

平成 17 年 2 月に新市建設計画が発行され、平成 19 年には武雄市総合計画が策定されました。

10 年を迎えるにあたり、先ほど答弁の中にもあっておりましたけれども、18 年以降の財政の比較とかいろいろ検証をされておられると思っております。そういう検証を受けですね、新たに総合計画を作成されるのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

中野つながる部長

○中野つながる部長〔登壇〕

総合計画の策定についてのお尋ねでございますが、現在 19 年から 28 年度までの 10 年をスパンとした総合計画を作成いたしております。

今後ですね、時代変化っていうのが非常にこう激しいというのが予想されますので、期間的に 5 年程度のスパンを対象とした基本構想と基本計画、基本政策と、そういったのがなるような新総合計画を策定していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

5 年程度の時代の変化に合わせたものを策定していきたいということでございます。総合計画というものは、市の将来像を描くものであるんじゃないかなと思っておりますので、ぜひ武雄市の振興、発展などをしっかり盛り込んだ総合計画を作成していただきたいをお願いをいたします。

総合戦略に関してもですが、さきに質問があっておりました、市長は今と未来を語る会で意見等を反映され、今年度中、秋ごろまでに作成をされるということでございました。我々も今後議会においてしっかりと審議をしていきたいと思っております。

それでは地方創生について最後の質問になりますが、最後というか 2、3 お聞きいたします。

前市長との会談について新聞等でも報道がありました。市長のブログにもありました。地方創生アドバイザーにということでございました。この件について公式なのか非公式なのか。

また県内の他の自治体においてですね、そのような動きとか事例があるのか、要請を受けられているのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まず県内市町で要請があるのかどうかは私は承知しておりません。

先日の会談を受けた話についてですね、地方創生アドバイザーを任命するしないについては、これについては最終的に市長の決定事項でありますので私にお任せいただければと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

今の中でこのお話はですよ、市長からの依頼なのか、ほかからアドバイスを受けての要請なのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

まもなく正午になりますけれども、このまま一般質問を続けたいと思います。

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私からの提案でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

市長からの依頼ということでございます。

先ほど市長の答弁の中にもありました市政アドバイザー、武雄市特別顧問の任命についてはですね、市長の委嘱事項であるというのは私も十分存じ上げております。

地方創生については県との連携が不可欠です。GM21も動き出したばかりです。さまざまな動きにメリット、デメリットはあります。この話が武雄市にとってプラスになるのかマイナスになるのか、どのようにお考えなのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

現段階で就任を要請し決定しておるような状況ではございませんので、そういう中で今の質問に対して、ちょっとお答えできることはないかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

私はこの件についていろんな意見、賛否両論あると思います。

そういう中でですね、私は県に誤ったメッセージを発信しているような気がいたします。（発言する者あり）県との関係、他の自治体との関係を十分に考えていただきたい。

市長は武雄市の当然トップであります。個々の、個人のことは言及いたしません、小

松市長の小松丸は出航したばかりです。武雄市のトップとして責任もあります。今後小松カラーを存分に出していただくためにも、頼りになる副市長もおられます。たくさんの部下と
いか同志の方もたくさんおられます。そしてこの議会もあります。

ほかの船長に頼るのはまだ少し早いのではないかと申し添え、私の、池田大生の一般質問
を終わります。(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

以上で7番池田議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 12時1分

